

本年度の 重点目標	①授業づくり ・教職員の専門性のさらなる向上を図り、発達段階や年齢、特性に応じた指導・支援をする。 ・校内研究の成果を授業に生かして実践を進め、12年間の学習の系統性も含めて検証する。 ・授業など1CTを積極的に活用し、児童生徒自ら情報化社会に対応できる力の基礎を身に付けられるようにする。 ②環境整備 ・安全で安心できる学習環境について、最新の情報に基づいて検証と改善を継続する。 ・激甚災害時など非常事態の備えについて確認し、教職員はもとより、児童生徒や保護者も防災意識を高められるようにする。 ・教職員にとっても働きやすい環境という視点に立ち、必要に応じて業務の見直しを図る。 ③地域との連携・協働 ・学習に地域資源を生かし、児童生徒が身近なところから生活する力を身に付けられるようにする。 ・効果的な学習や卒業後のよりよい生活のために、医療や福祉、入学前施設や進路先など関係機関との連携を図る。 ・地域の特別支援教育力向上のため、積極的に情報発信をし、相談・研修などに協力する。	重点 目標 する 番号		
	項目	重点目標	留意事項	
小学部	児童が身近なところから生活する力身に付けられるようにする。	教職員、保護者、関係機関と連携を強化し、児童に必要な指導や支援を考え、継続可能な方法で実施する。	児童の指導や支援に必要であるときは、家庭、地域の医療や福祉、入学前施設など、関係機関の意見を参考に、年間を通して協力、連携をしながら、児童にとってよりよい指導を検討し、学びの場を提供できるようにする。	入学児全員の入学前施設と懇談を行い、それぞれに合った支援を検討し、スムーズに学校生活を始めることができた。また、ケース会や関係機関との懇談を年10件実施した。家庭、デザイナーズ、学校の支援と照らし合わせてのこと、支援の参考としてきた。生活全体で直して方針を統一することにより、行動が落ち着いた事例もあった。今後も関係機関と連携し、児童へのよりよい支援に役立てていきたい。
中学部	中学部の教職員一人一人が授業を通して専門性を高め、それを生かした指導・支援を行う。	校内、校外における研修を積極的に受講したり、自ら情報収集を行い、知識を深めたりしながら専門性を高める。新しくした専門的な知識を生かした指導計画を立て、実践する。	教員の専門性については愛知教員教育成指標を元に、自分自身が学びたい分野を選択し、研究発表や論文、研究記録などに明記して発表する。専門性や専門性を、校内研究で用いる「学習シート」を作成する際に取り入れ、職員間で共有する。それぞれの教職員の専門が分るような提示を工夫し、若手教員や経験の浅い教員が、必要な分野で専門性の高い教員に相談できるようにする。	教員の専門性を高めるため、研究実践や研修への積極的な取組を中心に行った。愛知総合教育センターのラーニングや入学前施設や教育総合研究所、教職員支援機構などのオンライン研修、校外の研修会への参加などの取組を進めることができた。今後引き続き自己研修の促進をしていきたい。また、教員それぞれが自分の磨きた専門分野を選び、実践してきたことを一覧にし、全校に情報共有した。一人でもそれを手がかりに相談し、お互いに学び合ってほしい。
高等部	生徒の実態や発達段階、2年間の学習の進捗状況や進路指導計画を作成・修正し、授業づくりの充実を図る。	各教科等のモデル案を参考に年間指導計画を作成する。作成した計画を実践して検証を進め、高等部の実情に合わせたモデル案の修正を図る。	年度当初、年間指導計画作成前のモデル案を作成した経緯や意図、内容の確認を行い、情報の共有を行う。授業を実施しながら、各教科、学習グループで検証を行い、モデル案の修正を進める。	昨年度作成した年間指導計画モデル案の修正を図った。年度当初に高等部内に経緯や意図を説明した。実際に授業を進めながら、各授業担当者がモデル案を検討した。生徒の実態、3年間の系統性、指導内容の網羅や精選に難しさを感じた教科があった。校内研究で検討、作成した案を次年度に引き継ぎ、授業担当者の目安となるよう活用したい。
総務部	保護者や地域、関係機関・学校の様子を周知すること努める。	学校だよりを通じて効果的な情報発信を行う。見出し等工夫することにより、読みやすい紙面を作る。	各学期末に1回、年3回の学校だよりの発行を継続する。毎回記載内容を検討し、各行事や児童生徒の活動を偏りなく周知するように記載し、学校全体の様子を伝えるようにする。	学校だよりは、掲載きの紙面構成に合わせて写真の大きさや配置などをより読みやすくなるよう検討した。3回の発行で各年次の行事や授業の様子を偏りなく伝えられるよう昨年度の内容と比較しながら検討して発行できた。また、今年度110周年特別号を臨時で発行し、学習10年間の取組の様子を保護者や地域の方、関係機関に紹介で伝えられた。
教務部	児童生徒の主体的・対話的に深い学びにつながる授業を研究し、授業改善を行う。	教師が授業の展開や重要ポイントを記した「学習シート」を作成して、年に1回以上参観授業を行う。多くの教師が参観できる環境を整え、情報交換を通じて、授業改善を図るようしていく。	時間割調整をするなど、より多くの教師が参観できるように環境整備を行う。また参観を重点的に1学期を設ける。参観したことで新たな気付きとなったことを集約・周知し、他の授業でも活用できるように促していく。	ほぼ全職員が学習シートを作成して、授業実践を行った。授業実践では、必ず1名以上の職員が参観した。また、校内研究を通して各教科グループで意見交換し授業改善に向けて検討を重ねることができた。また、授業実践を通して、学習シート自体の内容を改善する必要があると感じた。特に学習シートについての授業づくりのポイントや参観が有効なポイントがあるかなと学習シートに関するところで、深い学びにつながる授業実践を充実させていきたい。
保健体育部	自分の健康を守ることでできる児童生徒の育成を目指す指導・支援の充実を図る。	児童生徒が運動に取り組む習慣が確立できるように、運動時間などの取組を設定する。	健康づくりのグランドデザインを分かりやすく提示するなどして周知し、本校児童生徒の健康課題を意識して取り組みを進める。	グランドデザインに示された4つの健康課題に関する取り組みを記入するシートへの記入依頼を行ったが、記入率が低かった。先生方の負担にならないよう、記入方法を工夫する必要がある。記入していただいたものについてはまとめて、共有処理する。
		ICTを活用した保健指導教材を作成し、担任と共に児童生徒の指導・支援に取り組む。	保健行事に合わせた保健だよりメール配信を行う。性に関する保健指導教材を作成し、児童生徒の実態に応じて、担任と協力して指導支援を行う。	各種健康診断に合わせた保健だよりメール配信し、家庭での事前学習に使用した。健康診断に向け、家庭で印刷した教材を活用し、関係機関ともあった。また、性・産の教員と協力し、実施に合わせた関係する保健指導教材の作成と保健指導を行う。教員と相談しながら、児童生徒の実態に合った支援を行うことができた。
生徒指導部	激甚災害に対する職員の役割分担を明確化する。	激甚災害時マニュアルに基づき、授業時間外、勤務時間外・休日に全職員がそれぞれ、どのような働きか理解できるように研修等を行う。	校務分掌や居住地により異なる業務内容を職員一人一人が把握すると、危機管理意識の向上を図る。	激甚災害時マニュアルに基づき、参集時の班別活動の内容を確認した結果、具体的に内容が記載されていない項目が確認できた。今年度内に記載できるようにした。また、年次には現場研修で事前の避難訓練の方法について考える機会を設定した。実際に年度内避難訓練を実施し、よりよい避難方法を検討する必要があると感じた。
進路指導部	外部機関との連携を図り児童・生徒指導を行う。	問題の未然防止、早期解決のためにスクールカウンセラー、警察、精神科医等との連携を図って対応する。	重大事象が発生しないよう、学校だけで対応が難しい問題には、積極的に外部機関と連携していくことを職員に周知していく。	昨年度に引き続き、積極的なスクールカウンセラーや警備士なども若者総合相談支援センター等と連携を図り、担任や先生方のニーズに対する助言をいただいた。相談結果等を校内の関係職員と連携を取って周知し、問題解決に生かしていきたい。
	進路先や福祉制度等の情報提供や生徒の実態に合わせた進路指導に取り組む。	保護者が知りたい情報内容についての調査、把握する。分かりやすく見やすいことを工夫したホームページや進路だよりを作成する。	進路先や福祉制度について、教職員との連携を密にし、生徒にとって有用な情報を提供できるように心掛ける。	現時点でできる限りの情報提供を第2回目進路指導講話等にて保護者に伝える。見通しをもち、その情報を有効利用していただけるよう期待したい。公表しやすい情報を選択し、ホームページに掲載する等の活用を図る必要がある。校内での進路に関する内容を更に全職員や保護者と共有していく。
自立活動部	自立活動の指導において、個の課題に応じた指導・支援をするために必要な職員の知識・技術を高める。	自立活動だよりを作成・発行したり、研修を実施したりする。	よく挙げられた課題を抜粋し、改善するために必要な指導・支援について自立活動だよりの中で紹介したり、専門的な講師を招き研修をしたりする。また、授業の組み立て方や個人の教材など自立活動に関する情報を収集し、共有できるようにする。	自立活動だよりを隔月で発行し、機軸のある指導・支援につながる課題の要因や工夫に寄り、個に応じた指導をしていくための基礎となる事項における指導での授業の工夫について紹介した。また、作業療法士を講師として、生活活動について実践を交えた研修を実施し、来年度以降も自立活動に関する指導・知識の体系的なレベルアップが図られるよう取り組んでいきたい。
研修部	校内研究の実践研究の充実を図る。	グループごとやリーダーと担当者との話し合いの時間を十分設け、方向性や状況など随時確認をする。教務部と連携して学習シートや授業観覧の仕方等について工夫と検討を重ねる。	資料の提示方法や進め方、まため方を工夫し、参加しやすい授業や検討したい事項を提案する。時間の調整をこまめにを行い、確認や検討などを進められる環境作りを心がける。	校内研究前に、全体へ資料や進め方、まため方を提示した。特に学習シートは、次年度に向けてよりよい形式になるよう更に検討を進めている。代表者を設けることでグループの進捗状況や疑問点などを話し合えた。学校全体で授業実践と授業参観ができたことで各グループの話し合いがより一層深まり、児童生徒が主体的に学ぶ授業づくりについての研究を充実させることができた。
情報図書部	電子データ教材の共有および利用の効率化を図る。	教材データの保存場所を一元所に統合し、共有しやすい環境を整える。	項目を精選し、探しやすくする。著作権および個人情報に配慮した保存に務める。	教材整理を保存するもののフォルダを一所にまとめることで、利用しやすいだけでなく、著作権及び個人情報への取扱いについて周知徹底すること、職員の意識が向上していった。データ量が年々増えてきているため、今後精選していく必要がある。
図書室	図書室利用の促進と、読書時間の確保を図る。	季節ごとのおすすめの本やコーナーを用意したり、通信で教員お薦めの本などを紹介したりする。読書月間週刊の校内放送で図書室利用の促進を促す。	校内放送では、生徒会に依頼して連携を図りたいを行う。年度当初には「図書室利用の仕方」を各クラスに掲示してもらい、正しい利用の仕方についても事前学習を行う。	生徒会との連携により読書月間のPR活動が活性化され、図書室の利用促進につながった。お薦めの本紹介など、通信も工夫改善することができた。さらに工夫してPR活動を進めていきたい。
教育支援部	センターの機能における地域支援の充実を図る。	くすのき相談センター等との連携をさらに深め、地域の学校へのニーズに応じた支援を行うことができる仕組みを整える。	過去3年間の地域支援の相談事例や助言内容を集約し分類する。整理した情報をもとに「地域支援マニュアル」を作成し、担当者や地域支援に携わる者ごとにより活用できるようにする。	地域支援マニュアルの使い方を支援部内に周知し、担当者は巡回の際に持参した。過去の地域支援の情報をまとめることで、類似した相談内容に対してアドバイスが与えやすくなった。来年度に向けて、マニュアルの整理をさらにに行い、活用しやすい環境を整えていく。
多文化解消	業務改善及び効率化を図る。	業務改善の具体的な提案を収集し、業務の改善や業務効率化を継続的に図る。	業務改善の具体的な提案の収集について、効率的で継続的な方法を検討する。業務改善は、全体のバランスを考慮し、個々の意識を高める。	校務補助員の配置や、メール配信アプリを使った欠席・遅刻連絡の受付、文書配布などにより業務の負担軽減を図ることができた。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		・児童生徒の発達段階や年齢、特性に応じた指導・支援の充実 ・児童生徒が安全・安心して学校生活を送るための環境整備及び指導・支援の充実 ・積極的な情報発信による保護者や地域、関係機関との連携		